Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　西深津小　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（２月末） □指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
５	児童の主体的な学びを全教室で展開	★	継続	「学ぶ喜び・楽しさを実感する授業」 を実践する。	・「さぐり」「学び」「決める」をキーワードに授業を計画的に検証する。 ・子どもと共に創る学びの授業計画から改善まで組織的に取り組む。	児童アンケート（自分で課題を見つけ進んで取り組んでいる） 肯定的回答 85%以上 年間５回の授業研究とそれに伴う事前・事後協議会10回実施 100%	・児童アンケート肯定的評価71%で，目標に達しなかった。児童と意識を共有することができていない。児童の「学び」から学習を進めることが充分にできていなかった。 ・授業研究に関することは100%できた。計画に沿って行うことができた。	３	３	・自分の課題に取り組む授業を行うため互いに学び合い深め合える学習集団づくりを行う。 ・「ときめきページ」「自主学習」の取組から学習の意味付け，価値付けを行う。 ・「課題を見つける」ことを習慣づけるよう場の設定や環境づくりを行い，総合や生活，体育等から取り組む。 ・授業研究に関することは，このまま計画通り行う。	・児童アンケート肯定的評価68%で，目標に達しなかった。授業の中で対話を通して学び合う場を積極的に設けたり，教科書にはない創造的な授業に取り組んだりした。また，「ときめきページ」を掲示したり学校だよりで紹介したりしたことにより，取り組む児童が増え，内容も深まってきた。 ・授業研究に関することは100%できた。	３	２	３	・「わかった」「できた」と感じている児童は８５%いるので，学ぶ喜びをさらに実感できる授業を実践する。また，学習を日常生活で役立てた児童を評価し，生活と学習を結び付ける視点を持たせる。 ・「ときめきページ」「自主学習」に継続して取り組み，主体的な学びを充実させる。 ・算数や国語，総合，生活，体育等で活用の時間の確保を行い，自分の課題を見つけることを習慣づける。
２	福山や地域への愛着と誇り，地域への貢献	★	新規	児童が，地域や人，ものとふれ合う。	・児童の，地域の行事への参加意欲を高める。 ・行事や活動の中に，ふれ合う場を仕組む。	児童アンケート（西深津への愛着を，以前よりも感じる。） 肯定的評価 ８５%以上	・児童アンケートの肯定的評価は９１%であった。各学年における地域を意識した活動によって，愛着を感じる児童が増えてきていると考える。	３	３	・自ら地域に関わろうとしたり，地域の一員としての自覚を持たせるために，活動したことや考えたことを発信させる。 ・活動後の地域の声を，児童に多く返していくことで励みにさせる。 ・学校での活動にとどまらず，個人レベルでも地域と関われる行動を意識させる。	・学年ごとに，地域行事への参加，地域施設見学や探検，及び地域資源を活用した取組を行った。 ・児童アンケートの肯定的評価は９０%で，目標を達成できた。	３	３	３	・各学年において本年度取り組んできた活動の成果を引き継ぎ，来年度も行うことで，継続した地域意識を高める。 ・地域で行われてる奉仕活動に児童もかかわることで，地域貢献の意識をさらに高める。
４	業務改善・業務削減の推進		継続	自ら仕事内容を把握して，見通しをもって計画的に実施することで，業務改善を行う。	・金曜日に次の週の仕事内容の確認を行う。 ・退校時刻の5分前行動の確実な実施。	アンケート（時間外労働時間月35時間以内を守る） 肯定的回答 100%。	・4月～9月で時間外労働時間を月35時間以内は77%（月45時間以内は，96%） ・会議等を縮小し，放課後の業務時間の確保はできている。	３	３	・日々の声掛けを継続的に実施し，早めに退校可能な日は，退校を促していく。 ・ICTの活用等により業務改善を進めることで，職員が互いに対話したり新しい取組にチャレンジしたりする時間を確保する。 ・毎日の在校等時間を入力することで時間外労働時間を把握する。	・10月～1月で時間外労働時間月35時間以内は83%（45時間以内は，98%） ・時程の見直しによる業務時間の確保 ・ICT活用による研修の効率化 ・掲示物での退校見える化	４	３	３	・時期により時間外労働時間の差はあるが，概ね目標時間を達成することはできた。 ・業務内容の精選や効果的な業務時間の活用方法をICT等を活かし見直していく。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。